

なぜ、創生水は『燃料』になるのか？

SLJ 宇宙生命科技研

所長 高尾征治（工学博士（九州大学））

<目次>

1. どのような方法で創生水は製造されるのか

1.1 創生水製造装置

1.2 創生水製造装置の構成素材のナノ結晶構造の形態に波動共鳴してニュートリノなど情報量子エネルギー（=気）が対発生する

1.3 通水中に起きるニュートリノと水分子の相互作用で水が改質機能化される

1.4 天然ヘナによる創生水の状態変化の視覚化

2. 創生水が『燃料』になる理由

2.1 製造方法

2.2 SFW エマルジョンの物性

2.3 新しい燃焼機構

<付録1>ニュートリノ形態波動共鳴説とマイクロ・ナノ水滴での実証写真

<付録2>ニュートリノの質量獲得メカニズムを解き明かす螺旋ゼロ場情報量子反応理論（=新しいヒッグス場理論）

【論稿要旨】 創生水製造装置の構成素材は高尾の量子水学説や螺旋ゼロ場情報量子反応理論にいうニュートリノ形態波動共鳴理論にふさわしいナノ結晶構造や化学構造をしている。その結果、ニュートリノなど情報量子エネルギー（=気）がゼロ場から渦巻いて対発生することになる。このような装置に通水すると対発生ニュートリノが水の構成原子に作用して、水素ガス、原子ラジカルイオン、電子、陽電子、陽子及び反ニュートリノや水素原子などが繰り返し生成され、改質機能化された創生水ができる。深井はこの種の創生水の状態変化が天然ヘナによる人毛の色の変化で視覚化できることを確かめている。この装置に一度だけでなく何度もくり返しリサイクルさせその機能性を高めたのが SFW だが、これをエマルジョン燃料に用いると、鶴野が指摘する「水蒸気改質」効果が形を変えて発現する。それは、分散相の SFW のマイクロ・ナノ水滴からもその中心がゼロ点となってニュートリノなどが渦巻いて対発生し、上述と同じメカニズムで水素ガス、反ニュートリノや水素原子などが繰り返し生成されるからである。さらに、藤松は、SFW ではマグネシウムやカルシウムの濃度が減りナトリウムの濃度が4倍になることや分散水滴表面電荷が負になることを突き止めている。これらの結果もまた水素ガス生成やマイナス静電気発生を伴うニュートリノ反応の結果としてまとめて説明できる。以上から、SFW は水であるにもかかわらず水素ガス生成可能な燃料となり、燃料油削減に貢献でき、より効率的燃焼や排ガス軽減に寄与できると考えられる。

なぜ、創生水は『燃料』になるのか？

SLJ 宇宙生命科技研

所長 高尾征治（工学博士（九州大学））

去る 2016 年 1 月 18 日、創生水ワールド(株)より下記の技術資料が送付されてきた。

- 1)寺田厚監修・深井利春編著『洗剤が消える日』、pp.1-279、ダイヤモンド社（2001）
 - 2)SOUSEI WORLD 編『創生水の奇跡』、pp.1-52(2015)（放射能除染関連）
 - 3)ビッグライフ編『Big Life 21 新・エネルギー革命』、pp.1-80、01 (January) (2016)
 - 4)グローバルコミュニティ編『Global Community』（留学生と国際派日本人のための国際交流新聞）「還元水を使った、航海実験で、40%の油の削減に成功」（2015 特別号）
 - 5)深井総研編 DVD「SFW 創生フュエルウォーター 新・エネルギー革命の嵐「内燃機関運用レポート」」（2016）
 - 6) 深井総研編 DVD「SFW 創生フュエルウォーター 水が変えるエネルギーの未来」
- さらに、2016 年 1 月 24 日、記の追加データ・資料が送信されてきた。
- 7)「分析表・粘度、密度、グラフ（動粘度・水分量比較、密度分析グラフ、密度分析結果、水分量測定結果）」、8 頁、（2014-2015）
 - 8)藤松仁：「エマルジョン燃料の分散性と水の成分」、5 頁（2013）—信州大学繊維学部 化学・材料系材料化学工学課程 教授—
 - 9)藤松仁：「表面張力の測定結果について」、4 頁（2013）—信州大学繊維学部 化学・材料系 材料化学工学課程 教授—
 - 10)小川誠一：「創生水が見せた“unusual action”」、5 頁（2013）（東京福祉大学名誉教授 医学博士）
 - 11)鶴野省三：「深井エマルジョン発熱量測定について」、5 頁（2013）—NPO 法人日本スターリングエンジン普及協会 理事長 防衛大学校名誉教授・工学博士—
 - 12)データ：エンジン性能報告書（2015.9.1）、RX8 燃費比較表（2015.12.5）
 - 13)深井総研(株)韓国支社：「和順（ファスン）肉牛の研究データ」、3 頁、（2013）
 - 14) 深井総研(株)韓国支社：「サンジ牧場 ちち牛の乳質データ」、3 頁（2013）
 - 15)深井利春：技術資料「創生水とヘナによる発色実験」、5 頁(2013)

以上のデータ・技術資料に全て目を通した上で、ここでは、なぜ SWF エマルジョン燃料が 50%超の原油削減率をもたらす燃費削減につながるのか？その理由を高尾^{2,3,4,5,6,7)}がオリジナルに提唱する現象論、実体論、本質論からなる量子水学説や新しいヒッグス理論（虚・無・実宇宙構図、螺旋ゼロ場情報量子反応理論）に照らして解き明かしてみたい。

1. どのような方法で創生水は製造されるのか

水道水、精製水、超純水などを用いる従来のエマルジョン燃料では、エマルジョン中の分散水滴の急激な膨張という物理的要因で燃焼がアップすると理解されている向きもあるが、それでは、燃焼アップのメカニズムを説明しているとは言い難い。また、水に改質機能性を付与して燃焼アップを図る開発研究が十分でない。

その点、以下に説明するように創生水は一度製造装置を通水するだけでも水に新しい改質機能性を付与できるだけでなく、何度も繰り返し通水して得られる SFW はそれよりはるかに高い改質機能性を持つことが予想される。

1.1 創生水製造装置

図1に創生水製造装置を示す。水道水は、まず 1)陽イオン交換樹脂を充填した軟水器に入る。次に、2)トルマリン・アルミカール充填塔に入り、さらには3)黒曜石充填塔を經由して創生水となる。

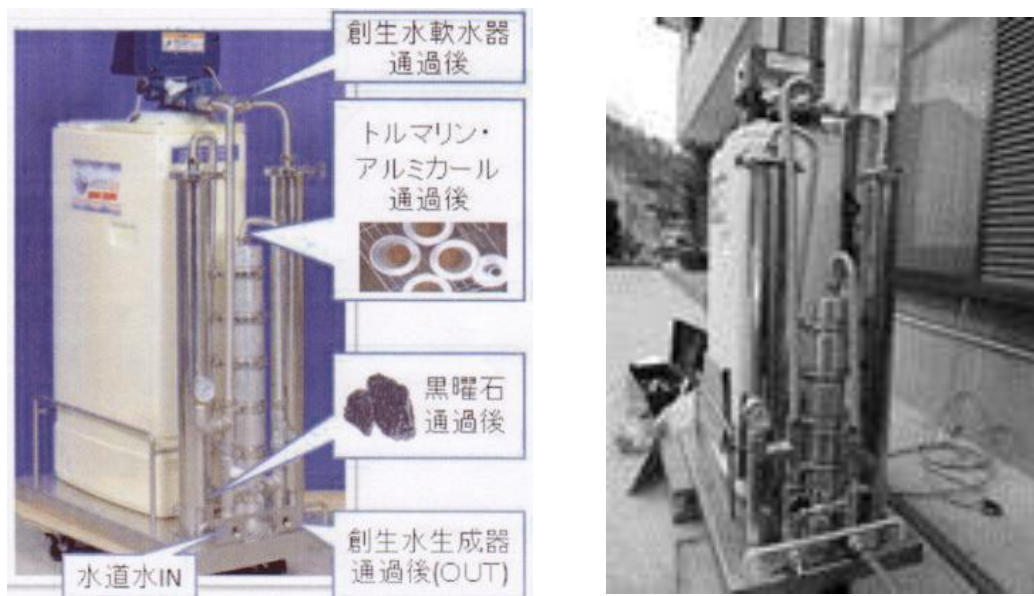


図1 創生水製造装置

このような構成にしたわけが、深井利春著「創生水が開発された訳—資産1億円を捨て、水を研究した開発者の思い—」の中に記されている。

- 1)トルマリンという電気石が水のクラスターを小さくできることを知った (p.25)。
- 2)トルマリンの入った水槽に一円玉をたまたま落としたのをきっかけに電極の針が思いっきり振れたことから、アルミでトルマリンの力を引き出せることを知った (p.26)。→洗える水へ

3)黒曜石が縄文時代に大量に使われていたとの読売新聞記事、「黒曜石を水がめの中に入れておくと水が腐らない」とのアルバイト時の話から、取り寄せた黒曜石を水につけたら酸化還元電位が下がることを知った (p.30)。→飲める水へ

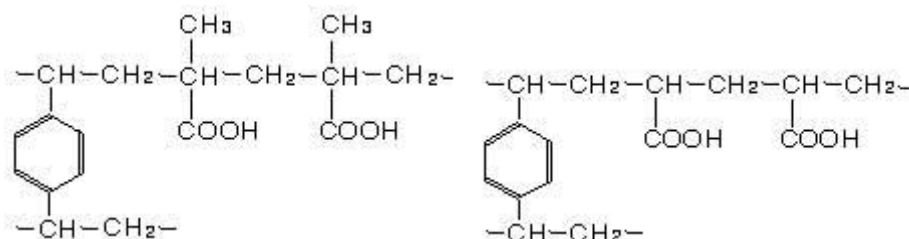
深井は、「これで、洗えるだけでなく、身体にもよい水になる」ことを確信したという。

1.2 創生水製造装置の構成素材のナノ結晶構造の形態に波動共鳴してニュートリノなど情報量子エネルギー (=気) が対発生する

1.1 で述べたように、創生水を製造する浄水器には以下の材料が使われている。

- 1)軟水器には硬水を軟水にする陽イオン交換樹脂が充填されている。
- 2)電気石の異名を持つトルマリンという自然石とアルミニウムを組み合わせで使用している。
- 3)酸化還元電位を激減させる (例えば+652mV の水道水が-729mV の創生水になる) 黒曜石を使用している。

まず、1)の陽イオン交換樹脂について言えば、それはマイクロサイズの網目構造を持つプラスチック粒子でナノサイズの六角型化学構造をしている。



(a) メタクリル酸系

(b) アクリル酸系

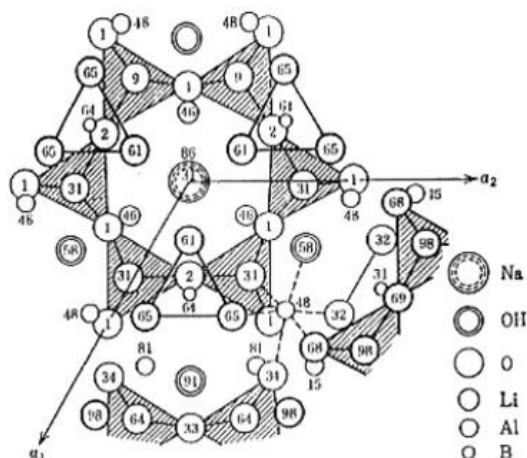
図2 弱酸性陽イオン交換樹脂の化学構造

2)について言えば、トルマリンのナノ結晶構造は、図3に示すように二次元で見ると正四面体が六角形状に配列しており、二次元で見ると六芒星となっている。

3)について言えば、黒曜石は火山爆発でマグマが急冷した非晶質のガラス状の岩石で、トルマリンとは隣り合わせの関係にあり、二酸化珪素 (SiO2) や酸化アルミニウム (Al2O3) などが主成分である。非晶質とされているが部分的には結晶も混在し、二酸化珪素は結晶化すると正四面体になる。

高尾^{2,3,4,5,6,7)}の量子水学説、とりわけニュートリノ実体論に言う、ニュートリノゼロ点生滅理論、ニュートリノ形態波動共鳴説からすれば、あるいは<付録1>にそれらの一部の詳細を示すように、図2のイオン交換樹脂の六角型化学構造、図3のトルマリンのナノ正四面体が六角形に配位した結晶構造、また黒曜石含有元素のナノ結晶構造の形態に波動共鳴してその中心に位置する虚・実境界域のゼロ点から情報量子エネルギー (光子、ニュー

トリノ、電子) (=気) が渦巻いて発生することになる。



SiO4 四面体を斜線で示し、Si を省略した。金属イオンのみの高さを数で示した。(Ito and Sadanaga,1951 及び Buerger,Burnham and Peacoa,1962 に基づく)

図3 トルマリンの結晶構造 (<http://www.torumakouza.com/kouza/index06.html>)

1)、2)、3)の素材による対発生ニュートリノの発生頻度やエネルギーレベルは異なるが、2)のトルマリン・アルミミールが優れて高いと推察される。というのは、前述パンフには「トルマリンの入った水槽に一円玉をたまたま落としたのをきっかけに電極の針が思いっきり振れたのでした」(p.26)とあり、この種の六角構造を持ったものにアルミを組み合わせるとニュートリノ由来の自然に起きる原子転換が起きることが、高尾ら^{3,4)}により消石灰(六方晶)とアルミニウム粉の自然放置実験で確かめられているからだ。

1.3 通水中に起きるニュートリノと水分子の相互作用で水が改質機能化される

このように虚・実境界域の螺旋ゼロ場で発生する量子エネルギー(光子、ニュートリノ、電子)の中で、とりわけ、ニュートリノの作用で水の改質機能化が促される。

それは以下のような量子化学反応式に従って起きる。

このような岩石を素材とする創生水製造装置では六芒星型ナノ結晶構造の中心のゼロ点からニュートリノが式(1)のように対発生している。



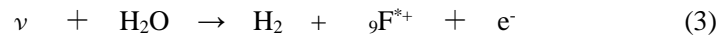
製造装置に通水すると、対発生するニュートリノが水分子と以下のように反応する。

まず、正ニュートリノ(ν)が水分子(H₂O)の水素原子(${}_1\text{H}$)に衝突すると、弾性衝突¹⁾となり式(2)が成り立つ。



すなわち、水分子は水素原子と OH に転換するが、ニュートリノは変化しない。

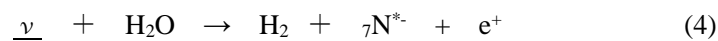
さらに、正ニュートリノが水分子の酸素原子 ($_{8}\text{O}$) に衝突すると、原子核の中性子が陽子に転換され原子番号が一つ上がる ¹⁾ので、式(3)が成り立つ。



ここで、 H_2 は水素ガス、 ${}_9\text{F}^{*+}$ は電子欠損のフッ素原子ラジカルイオン、 e^- はゼロ点から電荷保存的に発生する電子。

また、創生水製造装置に使われているトルマリンが別名「電気石」と言われるのは、正ニュートリノが既存原子（例えば岩石成分原子や空中成分原子など）に作用すると式(3)のように電子がゼロ点から電荷保存的に発生するからだ。

反ニュートリノ ($\bar{\nu}$) が水分子の酸素原子 ($_{8}\text{O}$) と衝突すると、原子核の陽子が中性子に転換され原子番号が一つ下がる ¹⁾ので、式(4)が成り立つ。



ここで、 H_2 は水素ガス、 ${}_7\text{N}^{*-}$ は電子過剰の窒素原子ラジカルイオン、 e^+ はゼロ点から電荷オゾン的に発生する陽電子。

一般の改質機能装置でもニュートリノと水分子の相互作用で式(3)、(4)のように水素ガスが発生する。創生水製造装置が他に比べて水素ガスが発生する能力が高いのは、アルミニウムを使用することによりさらにその機能をアップしているからだと考えられる。

また、反ニュートリノが水分子の水素原子に衝突すると、原子核の陽子が中性子に転換され原子番号が一つ下がる ¹⁾ので、式(5)が成り立つ。



ここで、 OH は水酸基、 ${}_0\text{n}^{*-}$ は電子過剰の中性子ラジカル、 e^+ は電荷保存的に陽電子。

式(5)の電子過剰の中性子ラジカルは不安定なので式(6)のように中性子(n)と電子になる。



中性子は 10 分前後の半減期で式(7)のように陽子、電子、反ニュートリノに β 崩壊する。



生成した反ニュートリノが再び式(5)のように水の水素原子と衝突するので、式(4)、(5)、式(6)、式(7)は半永続的なリサイクル反応を形成する。

式(7)で、陽子が電子を捕獲すれば、式(8)のように水素原子(${}^1\text{H}$)が発生する。系の特性で決まる逆向きの反応もあり、ある種の平衡関係があると予想される。



創生水の酸化還元電位が極めて低く活性水素濃度がどの自然水や改質機能水より著しく高いのは、式(8)の反応が効率よく進み、水素イオン（陽イオン）が減少し、水素原子、すなわち「活性水素」が多く発生したり、電子発生でプラスイオン電荷が減少したりするからだ。それ故に、また創生水は腐敗を抑える抗酸化機能性を持つことになる。

以上のような対発生ニュートリノと水分子の構成元素との相互作用から、量子・原子・分子連続転換が進み、水の改質機能化が促され、創生水が生まれることになる。

1.4 天然ヘナによる創生水の状態変化の視覚化

深井⁸⁾は、トルマリン・黒曜石を通した際の見た目には分からない創生水内の温度や時間的变化を、三種のヘナによる毛髪などの発色作用を調べることで視覚化することを試みている。それによると以下の発色傾向が観察されている。

- 1) 空中で薄い黄土色に近い人毛は、水道水（常温、3時間）では殆ど脱色され、創生水（常温、3時間）では逆に明瞭なオレンジ色に変わる。
- 2) 空中で薄い黄土色に近い人毛は、常温、3時間の創生水では明瞭なオレンジ色だが、温度を4℃、3時間の創生水では色が更に強まり茶色になる。
- 3) 発色の状態は時間に依存しており、45分より3時間と長くなるとその色が強まる。

すなわち、天然ヘナを用いて毛髪の色状態を観察すれば、水道水と創生水の発色の違いあるいは温度や時間に依存して変わる創生水の状態変化が明瞭に識別できる。それは、1.3節でのニュートリノ反応による創生水の状態変化及び<付録2>の図1、2に示す螺旋ゼロ場を介して起きる光が物質化する向きに起きる発熱的变化（温度上昇）や逆に物質が光化する向きに起きる吸熱的变化（温度低下）及び表1に示すその温度依存性とも結び合っていると考えられる。

2. 創生水が『燃料』になる理由

2.1 エマルジョンの製造方法

図4にSWFエマルジョン燃料の製造装置を示す。三叉管（図4右）を介して燃料油（ガソリン、軽油、重油など）とSFW（創生水）が一定の比率（例えば、SFW：燃料油=40:60など）で供給される。ここで、SFWとは図1の単一の創生水製造装置を複数回循環させ改

質機能性を高めた創生水のことである。

双方は重油、軽油の場合は、連結した攪拌部を有する装置内（図4左）で混合され SFW が分散相となる乳化状のエマルジョン燃料として、ガソリンの場合は三叉管を通したまま融和液体として、エンジンなどの燃焼装置に送られる。



図4 SFW エマルジョン製造装置

2.2 エマルジョンの物性

藤松⁹⁾は、A重油60%、創生水40%のSFWエマルジョンの物性などについて計測を行い、以下の点を指摘している。

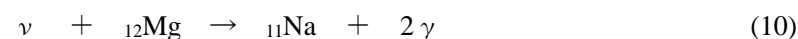
- 1)原水（水道水）と比べ Mg、Ca が除去され、Na が4倍に増加している。
- 2)処理水の場合は粒子の表面電荷が-33の Zeta Potential/mV の負になっている。

1)については、Mg、Ca が Na に原子転換されたと読み替えることができる。すなわち、創生水中では「1.3 通水中に起きるニュートリノと水分子の相互作用で水が改質機能化される」の式(5)、(6)、(7)に示すように反ニュートリノ ($\bar{\nu}$) が半永続的に生成される。その反ニュートリノが創生水中の希薄元素のマグネシウム ($_{12}\text{Mg}$) に衝突すると、原子核の陽子が中性子に転換され原子番号が一つ下がる¹⁾ので式(9)が成り立つ。



ここで、 $_{11}\text{Na}^*$ は電子過剰のナトリウム原子ラジカルイオン、 e^+ は電荷保存的にゼロ点から発生する陽電子。

この途中でゼロ点から顕現する陽電子が $_{11}\text{Na}^*$ の過剰電子に衝突すると式(10)が成り立つ。



ここで、 ${}_{11}\text{Na}$ はナトリウム原子、 γ はガンマ線 ($e^- + e^+ \rightarrow 2\gamma$)。

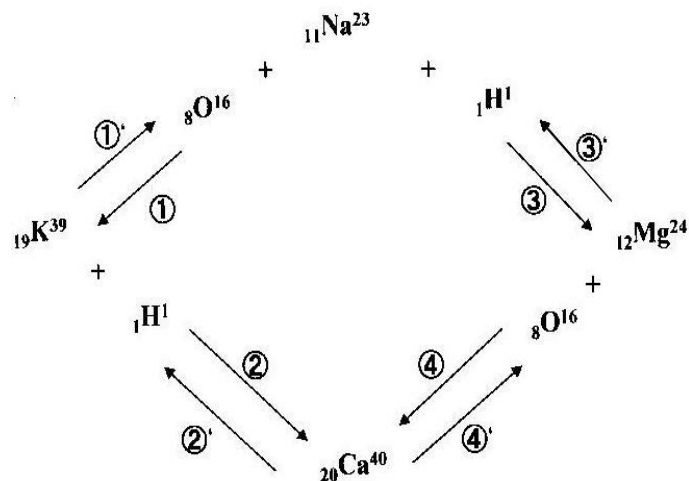
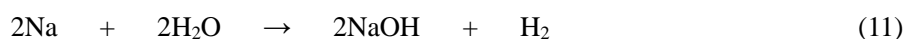


図5 ケルブランのNa⇌Ca原子転換構図¹⁰⁾

なお、ケルブラン¹⁰⁾は、3000件に及ぶ生体内外の原子転換事例から図5のような原子転換構図(1975年ノーベル生理学・医学賞ノミネート学説)を提唱している。創生水中では、図5の④'、③'の向きに原子ラジカル経由で原子転換が起き、カルシウム、やマグネシウムが減り、ナトリウムが増えていると考えられる。すなわち、③'の ${}_{12}\text{Mg} \rightarrow {}_1\text{H} + {}_{11}\text{Na}$ の現象論的な式は、より本質的な反ニュートリノ作用式(9)に置き換えられる。

こうして生成するアルカリ金属のナトリウム(${}_{11}\text{Na}$)は、周知のように常温でも水と激しく反応して式(11)のように水素ガスを発生させる(注1)。



式(11)の反応が起きたので、陽イオンクロマトグラフ法で Na^+ が検出されたとみることができる。

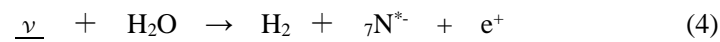
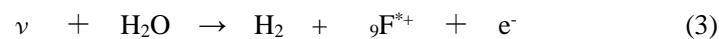
注1)ナトリウム(Na)などアルカリ金属のイオン化過程でもその原子核構造の形態に波動共鳴して構造中心のゼロ点から渦巻いて発生するニュートリノが絡んでいる。

2)については、分散相のSFWの水滴粒子の表面電荷、すなわち静電気がマイナスになると理解できる。すなわち、式(9)の反応が起きるとゼロ点から陽電子 e^+ が顕現するのでゼロ点には表に出ない電子 e^- が潜在することになる。これがマイナスの静電気となり、マイクロ、ナノ水滴粒子表面電荷を形成する。その結果、粒子表面のゼータ電位がマイナス値となっていると考えられる。

2.3 新しい燃焼機構

まず、<付録1>の「ニュートリノ形態波動共鳴説とマイクロ・ナノ水滴での実証写真」に示すようにエマルジョンを形成しているマイクロ・ナノ創生水滴の中心に当たる虚・実境界域のゼロ点から正、反ニュートリノが渦巻いて対発生する。

つぎに、それは、1節の「1.3 通水中に起きるニュートリノと水分子の相互作用で水が改質機能化される」のと同じメカニズムで水分子の構成原子と衝突する。その結果、先に示した式(3)、(4)のように水分子が分解され水素ガスが生成する。



加えて、2節の「2.2 エマルジョンの物性」の式(11)のように水分子から水素ガスが生成する。

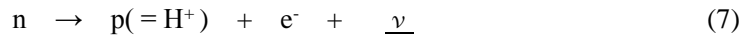


鶴野¹¹⁾は、SFW エマルジョン燃焼においては水反応率が50%程度の水蒸気改質（注2）に相当することが起きていると見ている。その真のメカニズムは、創生水の微小水滴内部においてニュートリノ反応由来で式(3)、(4) および Na アルカリ金属の水和反応式(11)のように水素ガスが発生するという科学的に説明できる。

注 2) 例えば、メタンの水蒸気改質反応は、高温(700~1100°C)かつ金属触媒の存在下で $\text{CH}_4 + \text{H}_2\text{O} \rightarrow \text{CO} + 3\text{H}_2 - 206 \text{ kJ}$ の吸熱反応となり、メタン (CH₄) を構成する H₄ だけでなく水分子 (H₂O) を構成する H₂ も水素ガスに転換される。この反応系でも螺動ゼロ場が水蒸気水滴内と金属触媒のナノ結晶内で形成され、その中心のゼロ点から渦巻いて対発生するニュートリノによる量子反応から分子転換式 ($\text{CH}_4 + \text{H}_2\text{O} \rightarrow \text{CO} + 3\text{H}_2$) が量論的に導け、かつ、なぜ吸熱反応になるのかも<付録2>の図1、2から定性的に説明できる。

他方、SFW のエマルジョンでは水素ガスだけでなく白煙¹²⁾の活性水素、すなわち原子状水素が重要な役割を演じていることも強調されている。しかし、なぜ、創生水中で水素原子が発生するのか？そのメカニズムが定かでない。

これについても、1節の「1.3 通水中に起きるニュートリノと水分子の相互作用で水が改質機能化される」に示すように、反ニュートリノと水分子を構成する水素原子の相互作用の結果としておきる一連の反応の結果として科学的に説明できる。

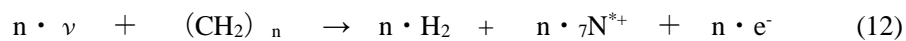


なお、この ${}^1\text{H}$ は、活性水素や原子状水素などいろいろの名前で呼ばれているが、水素原子そのもので、現代科学では不対電子ラジカル呼ばれ反応活性が高い。

さらに、＜付録 2＞の「ニュートリノの質量獲得メカニズムを解き明かす螺動ゼロ場情報量子反応理論（＝新しいヒッグス場理論）」に示すように、螺動ゼロ場が形成されれば、虚光子→螺動ゼロ場→実光子、正、反ニュートリノ、電子、陽電子→正、反クォーク対 (\underline{d} 、 \underline{d} 、 \underline{u} 、 \underline{u}) → n (π^0 、 π^+ 、 π^-) → $\text{p} + \text{e}^- + \nu$ を経て水素原子 (${}^1\text{H}$) そのものが光子から創生される可能性もある。

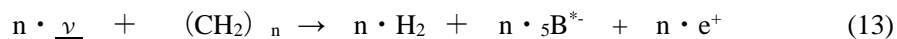
この他、マイクロ・ナノ創生水滴の周囲は油膜が形成されている。これに対発生ニュートリノが作用しても水素ガスが発生する。

正ニュートリノが燃料油 ($(\text{CH}_2)_n$) の炭素原子 (${}^6\text{C}$) に衝突すると、原子核の中性子が陽子に転換され原子番号が一つ上がる ¹⁾ので、式(12)が成り立つ。



ここで、 H_2 は水素ガス、 ${}^7\text{N}^{*+}$ は電子欠損の窒素原子ラジカルイオン、 e^- はゼロ点から電荷保存的に発生する電子。

反ニュートリノ ($\underline{\nu}$) が燃料油 ($(\text{CH}_2)_n$) の炭素原子 (${}^6\text{C}$) に衝突すると、原子核の陽子が中性子に転換され原子番号が一つ下がる ¹⁾ので、式(13)が成り立つ。



ここで、 H_2 は水素ガス、 ${}^5\text{B}^{*-}$ は電子過剰のホウ素原子ラジカルイオン、 e^+ はゼロ点から電荷保存的に発生する陽電子。

その結果、SF_W（創生水）をエマルジョン燃料として使えば、水道水よりはるかに多くニュートリノが発生する分だけより効率的に燃焼が促され排出ガス濃度も軽減できると予想される。

さらに、寺田・深井 ¹³⁾が 2001 年に著した『洗剤が消える日』によれば、「重油を分解し

て海を蘇らせる」(p.72)とある。これは、1節の「1.3 通水中に起きるニュートリノと水分子の相互作用で水が改質機能化される」で明らかにしたように、創生水製造後でも創生水中で反ニュートリノが半永続的に発生し続け、式(13)のように油分が分解されるからだと説明できよう。

【引用文献】

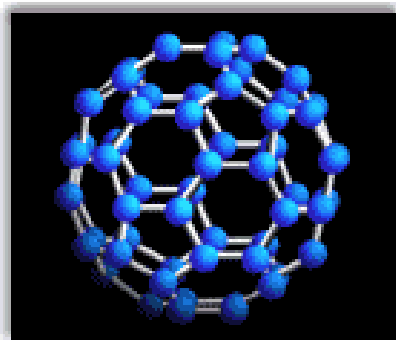
- 1) 日本物理学会編：『ニュートリノと重力波』、p.179-202、裳華堂(1997)
- 2) 高尾征治：『新時代を拓く量子水学説』、pp.1-454、Eco クリエイティブ(2013)
- 3) Komaki H. and M. Takao et al.: “Effect of Functional Waters on the Growth of Lactic Acid Bacteria and Yeast and Its Mechanism,” Conference Proceedings of the 10th APCChE Congress, 3P-01-097, Kitakyushu, Japan (2004)
- 4) Takao M. and H. Komaki et al.: “Atomic Conversion in the Long-Term Experiment of Calcium Hydroxide and Aluminum in the Atmosphere,” Conference Proceedings of the 10th APCChE Congress, 4D-07, Kitakyushu, Japan (2004)
- 5) 高尾征治・川添淳一・高倉剛・石田静子・増本勝久・里中耕也・高瀬洋太郎・：梨子木久恒・和仁宗憲・安長たかみ・木原秀成・小牧久時：「Ap-1 ニュートリノ形態波動共鳴説によるフラーレン機能発現機構の考察」、第 112 回日本物理学会九州支部例会予稿集、p.16(2006)
- 6) 高尾征治・川添淳一・石田静子・増本勝久・里中耕也・高瀬洋太郎・：梨子木久恒・和仁宗憲・安長たかみ・木原秀成・小牧久時：「Ap-2 ニュートリノ形態波動共鳴説によるカーボンナノチューブ機能発現機構の考察」、第 112 回日本物理学会九州支部例会予稿集、p.17(2006)
- 7) 高尾征治：「ヒッグス理論と螺旋ゼロ場情報量子反応理論の関係性」、日本物理学会 2013 秋季大会講演概要集、21pSG-3、70 巻、第 2 号、第 1 分冊、(2013)
- 8) 深井利春：技術資料「創生水とヘナによる発色実験」、5 頁 (2013)
- 9) 藤松 仁：技術資料「エマルジョン燃料の分散性と水の成分」、5 頁 (2013)
- 10) ケルブラン：『生体による原子転換』,桜沢如一訳,日本 CI 協会(1962)、ケルブラン：『自然の中の原子転換』,桜沢如一訳,日本 CI 協会(1963)
- 11) 鶴野省三：技術資料「深井エマルジョン発熱量測定について」、5 頁 (2013)
- 12) 白畑實隆：「電解還元水の活性酸素類の消去及び DNA の酸化損傷からの保護作用」アメリカ生物科学誌 BBRC 誌 1997 年 5 月号 発表論文
- 13) 寺田厚監修・深井利春編著：『洗剤が消える日』、pp.1-279、ダイヤモンド社(2001)

<付録 1> ニュートリノ形態波動共鳴説とマイクロ・ナノ水滴での実証写真

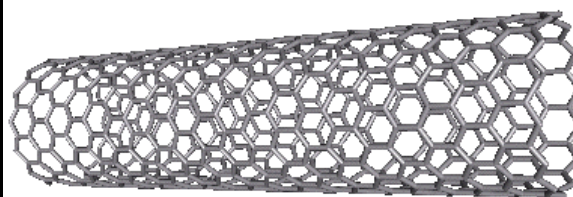
1. ニュートリノ形態波動共鳴説とその実証的根拠

図1に量子水学説の実体論に位置しその骨格を担うニュートリノ形態波動共鳴説^{1,5,6)}を示す。

1 量子水学説1.2 実体論→①ニュートリノ形態波動共鳴説(フラレンの幾何学構造)



フラレン C_{60}



カーボンナノチューブ
(六角形のみ)

ゼロ点 → 球体中心、ニュートリノ対発生
五角形(12個) 反ニュートリノの受け皿
六角形(20個) 正ニュートリノの受け皿

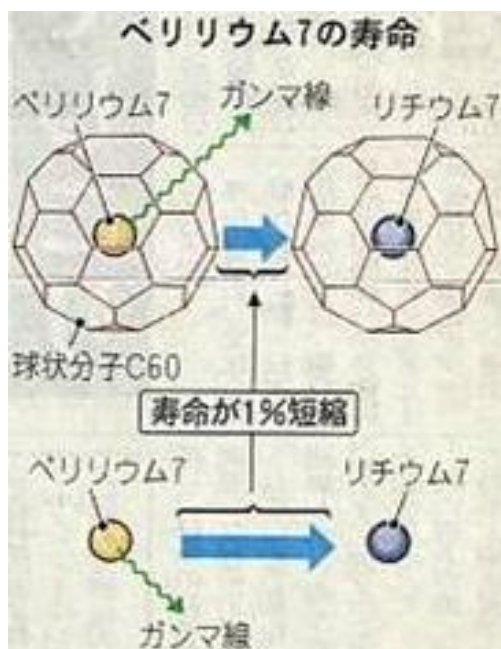
図1 ニュートリノ形態波動共鳴説

それは図1に示す最先端のナノテク分子の炭素分子フラレンやカーボンナノチューブの幾何学形状にヒントを得て閃いた。フラレンは、五角形の形をしたものが12個と六角形の形をしたものが20個からなるサッカーボール状のナノ球体で節目に炭素60個が集合している。そこで、ナノサイズ球体の中心から正、反ニュートリノが湧き、五角形には反ニュートリノ、六角形には正ニュートリノが波動共鳴して周囲の炭素原子に衝突すると仮定してみた。その結果、フラレンだけでなくその対極に位置するカーボンナノチューブに関する既知の化学的・電気的機能もまとめて説明でき、一般性のある仮説であることがわかった^{5,6)}。

さらに、この仮説の妥当性は、2004年9月21日付の熊本日々新聞で報じられたフラレンを使ったベリリウム元素の寿命短縮実験からも裏付けることができる。すなわち、東北大の研究チームがこの図2に示すようにフラレン内のベリリウム(${}^7_4\text{Be}$)の寿命が空中に放置したものに比べて1%近くも短くなることを付きとめ、半世紀の常識を覆した世紀の大発見と報じている。しかし、そのメカニズムは明らかになっていない。

それも、ニュートリノ形態波動共鳴説を適用すれば、フラーレン中心の 0 点で対発生した正、反ニュートリノのうち、反ニュートリノ($\bar{\nu}$)がフラーレン内のベリリウム(${}^7_4\text{Be}$)に衝突すると、この図2の式(5)のように γ 線を放射してリチウム(${}^7_3\text{Li}$)に崩壊すると実験事実を説明できる。 γ 線が放射されるのは、反ニュートリノの作用でゼロ点から発生する陽電子(e^+)が正ニュートリノの作用で発生する電子(e^-)あるいは、マイナスのリチウム原子ラジカル(${}^7_3\text{Li}^*$)の過剰電子と衝突するからである ($e^+ + e^- \rightarrow 2\gamma$)。

1量子水学説1.2実体論→②フラーレン内でのベリリウム(${}^7_4\text{Be}$)の寿命1%短縮→世紀の大発見



熊本日々新聞
(2004年9月21日付)
東北大研究チーム

高尾の理論解析

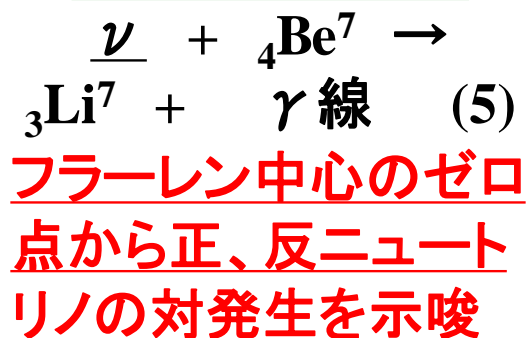


図2 フラーレン内ベリリウムの寿命短縮

以上から、ニュートリノ形態波動共鳴説が実証的根拠のある普遍性のある理論であることがわかる。

2. マイクロ・ナノ気泡、水滴からのニュートリノなど情報量子エネルギー発生写真^{1,2,3)}

さらに、フラーレンそのものではないが、それに相似なマイクロ・ナノスケールの微小気泡、微小水滴の中心からニュートリノなど量子エネルギーが湧いている証拠写真もある。図3にそれを裏付ける写真を示す。

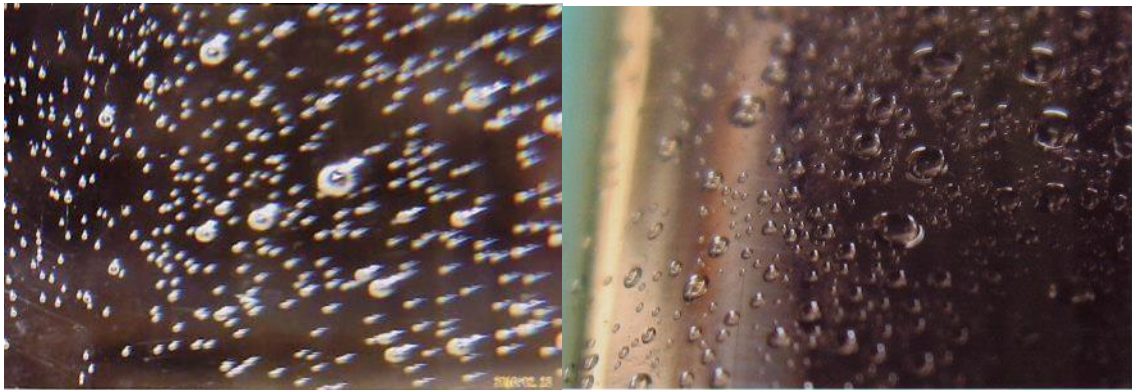


図3 マイクロ・ナノ気泡、水滴から放射される量子エネルギー

図3の左側の写真は、共同研究者の安藤によりデジカメで撮影された。左側の水素微泡について説明すると、まず、エンバランスポリ袋を独自に描いた准32面体図象を封入した「こづち」で結界をはりエネルギーアップさせる。それに水を容れると水素微泡がエンバランスポリ袋の内表面に付着する。写真には、その微泡の中心から青白い量子エネルギーが水中へ放射されているのが明瞭に映っている。それはスーパーカミオカンデで観測されたニュートリノが水に衝突して発生する荷電粒子の発色光と同じ色合いをしている。ここで、従来物理学に言う荷電粒子の正体ははっきりしていないが、高尾⁴⁾が理論的に突き止めたニュートリノ励起原子ラジカルと考えられる。

図3の右側の微小水滴の写真は、波動器具「こづち」の表面にエネルギーアップした水を噴霧して撮影された。水滴表面から突起状に白い光が放射されているのがわかる。わずかに青色も見えるが、空気中への放射なので左側の水素微泡の写真のように水中への放射ほど顕著ではない。

以上説明してきた図2、図3は、高尾の提唱するニュートリノ形態波動共鳴説に実証的根拠を与え、エマルジョン化した創生水のマイクロ・ナノ水滴集団からもニュートリノなど量子エネルギーが放射されている証しとなる。

すなわち、微泡は外側が水で内部は気体、微小水滴は内部が水で外側が空気であるが、いずれも微小球体廻り20個の水分子の構成元素にあたる40個の水素原子と20個の酸素原子がフラーレン状につながっている可能性が高いからだ。

【引用文献】

- 1)高尾征治：『新時代を拓く量子水学説』、pp.1-454、Ecoクリエイティブ（2013）
- 2)高尾征治：「27aXE-4 放射性元素の寿命崩壊論に潜むゼロ点生滅ニュートリノと技術事例」、日本物理学会第68年会講演概要集、（2013年3月27日、広島大学）
- 3)高尾征治：「放射性元素の寿命崩壊論に潜むニュートリノゼロ点生滅と技術事例」、環境放射能除染学会第2回研究発表会要旨集、p.41（2013年6月5日、タワーホール船堀（東

京))

- 4)高尾征治・石田静子・小牧久時・梨子木久恒・増本勝久：「20pSE-1 ニュートリノ螺旋動
ゼロ点経由創生とニュートリノ励起原子ラジカルについて」、日本物理学会講演概要集、
第 61 巻、第 2 号、第 1 分冊、p.8(2006)
- 5)高尾征治・川添淳一・高倉剛・石田静子・増本勝久・里中耕也・高瀬洋太郎・：梨子木久
恒・和仁宗憲・安長たかみ・木原秀成・小牧久時：「Ap-1 ニュートリノ形態波動共鳴
説によるフラーレン機能発現機構の考察」、第 112 回日本物理学会九州支部例会予稿集、
p.16(2006)
- 6)高尾征治・川添淳一・石田静子・増本勝久・里中耕也・高瀬洋太郎・：梨子木久恒・和仁
宗憲・安長たかみ・木原秀成・小牧久時：「Ap-2 ニュートリノ形態波動共鳴説による
カーボンナノチューブ機能発現機構の考察」、第 112 回日本物理学会九州支部例会予稿
集、p.17(2006)

＜付録2＞ニュートリノの質量獲得メカニズムを解き明かす 螺旋ゼロ場情報量子反応理論（＝新しいヒッグス場理論）

梶田博士のノーベル物理学賞受賞のTV、新聞報道などを見聞するに、依然として「ニュートリノは基礎研究として重要だが実用的には役に立たない」との前回受賞者の小柴博士流の論調も目立つが、その一方で、「物質の成り立ち」に関する新理論ができるなど宇宙全体の謎を解き明かす鍵を握っているとの論調もある。その通りで、ニュートリノは100種を超える素粒子の中で質量が最小で、しかも唯一原子核の状態を変えられる原子転換能を持つ魅力的な素粒子で、それ故実用的にも役に立つようになるであろう。問題は、そのニュートリノがどのようなメカニズムで質量を獲得するかであろう。

その「物質の成り立ち」を解き明かす新理論を探るには、視野を実空間（≡物質世界）だけでなく虚空間（≡精神世界）にも広げ、両者を統合する哲学理論と虚・実境界域を支配する科学法則を構築せねばならない。物質世界の枠組みでの衝突実験の結果から陽子の134倍の質量を持つとした従来のヒッグス粒子仮説を質量ゼロのヒッグス粒子に止揚した新しいヒッグス理論の誕生が待たれる。

このような要請に答えるため、高尾^{1,9)}は、以前からニュートリノを図1、図2に示す螺旋ゼロ場情報量子反応理論の主役に抜擢してきた。

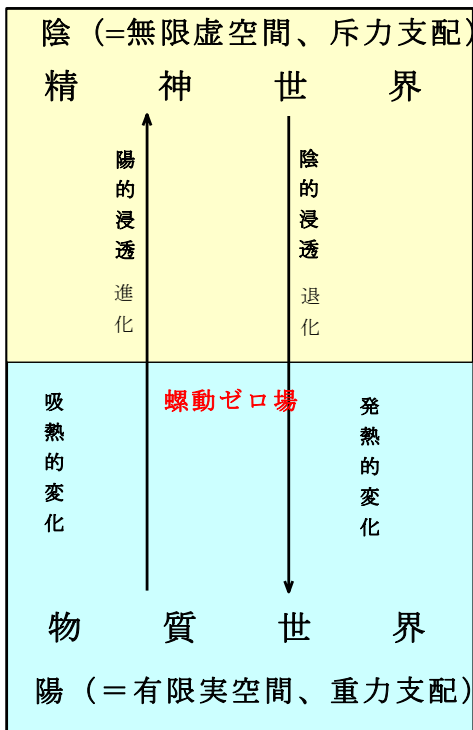


図1 虚・無・実宇宙構図

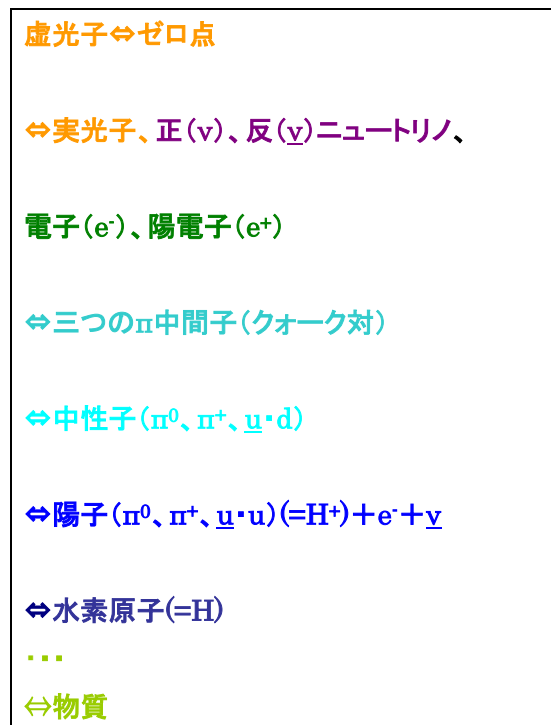


図2 螺旋ゼロ場量子反応式

それは、虚・実境界域のゼロ点 (=ペンローズのヌル粒子³⁾) が質量ゼロのヒッグス粒子で、虚・実境界域の螺旋ゼロ場をヒッグス場とする新しいヒッグス理論に相当し、ニュートリノが虚空間光子から生まれる最初の最小質量の素粒子であるととらえている。当初、ニュートリノを「幽霊粒子」と呼んだのも言い得て妙であり、そもそも当初質量を持たないとされていたニュートリノが質量を持つと認識された研究経緯の中に、ニュートリノがヒッグス理論の主役になれる秘密が潜んでいるようにも見える。

以下に、高尾の螺旋ゼロ場情報量子反応理論 (=新しいヒッグス理論)、すなわち気の量子反応理論を概説する。

図1に虚・無・実宇宙構図示す^{1,2,9)}。すなわち、我が宇宙は実空間に近似される物質世界と虚空間に近似される精神世界からなる。実空間の物質世界は有限で閉じていて重力支配なら、「すべては陰陽からなる」という弁証法公理から虚空間の精神世界は無限で開いており斥力 (=反重力) 支配となる。

しかも、双方の世界は、図1に模式的に示すようにペンローズ³⁾の虚・実境界域のヌル粒子にあたる螺旋ゼロ場を介して相互に情報量子エネルギーを交換している。虚空間の精神世界から実空間の物質世界へ量子エネルギーが相転移する場合には、物質世界側は発熱的に変化し物体重量が一時的に軽くなる。虚空間から斥力支配の量子エネルギーが重力支配の実空間に渦巻いて湧くからである。逆に、実空間の物質世界から虚空間の精神世界へ情報エネルギーが相転移する場合には、物質世界側は吸熱的に変化し物体重量が一時的に重くなる。これは、現代物理学の到達知見の一つであるランドール⁴⁾の「原子が消える向きに量子反応」が起きるということにあたる。

図2に虚・実境界域の螺旋ゼロ場量子反応式を示す^{1,2,9)}。まず、虚光子がゼロ点を介して質量を持たない実光子(γ)と質量を持った正(ν)、反($\bar{\nu}$)ニュートリノ、正(e^-)、反電子=陽電子 (e^+)になる^{5,6)}。こうして生まれた実光子から電荷が0の π^0 中間子が生まれ、正、反ニュートリノ、正、反電子から電荷が+1の π^+ 中間子と電荷が-1の π^- のクォーク対が生まれる^{5,6)}。これらのクォーク対から中性子(n)が生成する^{7,8)}。この創生自由中性子は約10分の半減期で β 崩壊し、陽子(p)と電子(e^-)と反ニュートリノになる。同時に陽子が電子と融合して原子番号が最小の水素原子($1H$)が誕生することになる。この螺旋ゼロ場量子反応は光が物質になる向きにも物質が光に成る向きにも可逆的に起きる。

従って、螺旋ゼロ場は従来科学の言う4つの力(重力、強い力、弱い力、電磁力)だけでなく斥力(=反重力)をも含む5つの力を統一している。同時に螺旋ゼロ場は従来科学の言う素粒子が質量を獲得する「ヒッグス場」にあたり、質量を獲得する機能だけでなく質量を失う機能を持ち合わせている。

表3に人為的な操作条件と螺旋ゼロ場情報量子反応の起こり方の関係性を示す。すなわち、人為的に加熱、加圧すれば光→素粒子→物質の向きに情報量子反応が促され、逆に冷却、減圧すれば、物質→素粒子→光の向きに情報量子反応が促される。

表3 人為的操作条件と虚・実境界域の情報量子反応の起こり方

	螺動ゼロ場量子反応の 起こり方	物質の軽重	空間のレンズ効果
加熱、加圧	光→物質	重い→軽い	斥力膨張
冷却、減圧	物質→光	軽い→重い	重力収縮

【引用文献】

- 1)高尾征治：『新時代を拓く量子水学説』, pp.1-454, Eco クリエイティブ(2013)
- 2)高尾征治・石田静子・増本勝久・梨子木久恒・里中耕也・安藤昭三・岡野吉郎：「宇宙斥力と第2のインフレーション膨張に関する人間原理的考察」、日本物理学会 2011 秋季大会講演概要集、19pSF-9、67 巻、第 2 号、第 1 分冊、(2011)
- 3)ペンローズ：『ペンローズの＜量子脳＞理論』、竹内薫・茂木健一郎翻訳・解説、徳間書店 (1997)
- 4)リサ・ランドール：『ワープする宇宙—5 次元時空の謎を解く』向山信治 監訳、塩原通緒 訳、NHK 出版 (2007)
- 5)高尾征治・石田静子・増本勝久・梨子木久恒・里中耕也：「虚・実境界域螺動ゼロ場のヒッグス機能と幾何学構造」、11aSE-2、日本物理学会 2010 年秋季大会講演概要集、第 65 巻、第 2 号、第 1 分冊、p.24 (2010)
- 6)高尾征治・石田静子・増本勝久・梨子木久恒・里中耕也：「螺動ゼロ点での光子、レプトン生成論」、11aSE-3、日本物理学会 2010 年秋季大会講演概要集、第 65 巻、第 2 号、第 1 分冊、p.25(2010)
- 7)高尾征治・石田静子・増本勝久・梨子木久恒・里中耕也：「レプトンからのクォーク生成論」、11aSE-1、日本物理学会 2010 年秋季大会講演概要集、第 65 巻、第 2 号、第 1 分冊、p.24(2010)
- 8)高尾征治・石田静子・増本勝久・梨子木久恒・里中耕也・安藤昭三・岡野吉郎：「三種の π 中間子からなる中性子構成仮説について」、日本物理学会 2011 秋季大会講演概要集、19pSF-8、67 巻、第 2 号、第 1 分冊、(2011)
- 9)高尾征治：「ヒッグス理論と螺動ゼロ場情報量子反応理論の関係性」、日本物理学会 2013 秋季大会講演概要集、21pSG-3、70 巻、第 2 号、第 1 分冊、(2013)

高尾（上野）征治プロフィール： 工学博士（九州大学）、SLJ 宇宙生命科技研 所長

1943年福岡生まれ。1996年九州大学化学機械工学科卒と同時に研究職に就き 1983年反応系の攪拌混合技術で工学博士取得。その後、独自の哲科学研究に従事し、物質と精神を統合した「弁証法的物神一元論」、臨死体験対立説を止揚した新しい宇宙生命像などを原著学術論文として人体科学会誌に公表(1998~2001)。相前後して水の改質機能化技術の開発研究に従事し、自然に起きる原子転換理論を量子水学説として体系化。さらに螺旋ゼロ場情報量子反応理論(=ヒッグス理論)の構築、放射能の化学的分解理論に新境地を開拓。著書に『脳内パラダイム革命がもたらす新しい宇宙生命像』、pp.1-326、徳間書店(1996)、『新時代を拓く量子水学説』 pp.1-454、Eco クリエイティブ(2013)など、その他著書、論文多数。

